

子どもに対するネグレクト

3年2組17番 染谷 好美

1. はじめに

私は現在「子どもに対するネグレクト」というテーマで探求を進めている。これは社会で数多く存在する深刻な問題のうちの一つである。近年、子どもに対するネグレクトは30年前と比べて急激に増加している。このことについて研究しようと思った動機は、私が初めてネグレクトのことを実際に父の周りであった問題について聞き知った時、自分とはあまりにもかけ離れた現状に衝撃を受け、なぜそのようなことが起きてしまうのか、想像もできない事実疑問を抱いたからだ。また将来子どもに関わる仕事に就きたいと思っているので、この問題は特に知っておかなければならないと思ったからだ。そのため、近年の子どもの数とネグレクトの増加率の関係をもとに考えていく。

2. 序論

厚生労働省のe-ヘルスネットより、ネグレクトとは、幼児・児童・高齢者・障害者などに対し、その保護、世話、養育、介護などを怠り、放任する行為のことである。身体的、精神的、性的虐待と並ぶ虐待の一つであり、日本では特に今回の私の探求テーマである子どもへの「育児放棄」を指すことが多い。身体的、精神的、性的虐待は主に子どもに危害を加える、有害なことをする。ことであるがネグレクトは逆に、家に閉じ込める、食事を与えない、ひどく不潔にする、など育児を怠り、子どもが必要なものを親が提供せず、放置することを言う。なぜネグレクトをしてしまうのか、なぜなくなるのか、どこからがネグレクトと言われる境目なのか、様々な疑問が生まれたが、そんな数えきれない多くの疑問から今回私は、近年子どもの数は減っているのにネグレクト件数が増えていることに一番疑問を感じたので、「なぜ昔と比べて子どもの数は減っているのにネグレクトされている子どもの数は数十年で急激に増加しているのか」という問いについて探究を進めていきたいと思う。

3. 本論

厚生労働省による児童相談所での児童虐待対応件数より、平成2年（1990年）の1101件から、令和2年度（2020年）の205022件へと、約186倍に増加している。しかし、警視庁、総務省の児童虐待事件と子どもの全人口に占める割合の推移を比べると虐待件数は増加しているにもかかわらず子どもの数は年々減少してきていることが判明した。ではなぜ30年でこんなにも子どもの数は減少しているのに、児童虐待相談件数は増加しているのだろうか。私はこの件に対してインターネットの普及率の増加という仮説を立て、これから検証していきたいと思う。

ではなぜインターネットが普及すると虐待が増えてしまうのだろうか。一般的に考えてインターネットはとても便利である。育児でわからないことがあるとすぐに検索して答えを見つけることができるし、子どもに何かあればすぐに病院を予約できる。また昔は、家族や親戚など、身近な人の狭い意見しか聞けず、偏った育児をしている家庭も多くあったと考えられるが、今は不安があれば誰にでも相談することができる。ただ、こんなに便利なインター

ネットも、全ての親が育児を優先して使用しているとは限らない。今や仕事や日常で欠かせないスマホやタブレットだが、便利な反面様々な弊害があるのも事実だ。

株式会社ベネッセホールディングスのベネッセ教育総合研究所は、2017年 東京・神奈川・千葉・埼玉に在住の0歳6か月~6歳までの乳幼児をもつ母親 3,400名を対象に「乳幼児の親子のメディア活用調査」を実施したところ、0歳後半~6歳児の子どもをもつ母親スマートフォン使用率は2013年の60.5%→から2017年:92.4%へ増加しており、またスマートフォンに接する頻度と時間は、「ほとんど毎日」使う割合が2013年の11.6%から→2017年の21.2%へ、そして平日1日あたりの使用時間が15分未満の割合が70.2%で、外遊びや散歩の時間は、約7割が1日1時間以上で、おもちゃで遊ぶ時間は約8割が1日1時間以上だ。一方、メディアごとの視聴時間は、テレビを除き約5~9割が1日15分未満で、これらにより、全体的なバランスは4年前と比較して大きく変化していないことがわかる。調査企画・分析に関わった研究者からのコメントとしては、今回の調査結果から、スマホが乳幼児の生活の中で、依存症状などを生み出しているのではないかと等を慎重に調べたが、結果はそうではなく、乳幼児が長時間利用している家庭はごくわずかであり、外遊びや絵本を読むなどの時間が減少しているわけでもなく、1日の生活の中にバランスよくメディアを取り入れようと保護者が配慮している様子がうかがえるものだった。と発言されている。視聴する内容やルールについても気にかけている家庭がほとんどで、乳幼児のメディア利用に対して社会の方が過度な心配をしなければならない、という結果ではなかった。

他の研究者によると、「子どもは触れ合いにより育つ」と言われており、触れ合いとは、愛情を込めて行うスキンシップを言う。もしメディア依存症になると、愛着形式が障害され、

- 1名前を呼んでも振り向かない。
- 2視線が合わないことがある。
- 3落ち着きがない。
- 4表情が乏しい。

というような症状が見られる恐れがある。

触れ合いは愛の言葉と言われ、子どもが育つ原則であるので、スマホ育児やメディア依存では、触れ合いが不十分で、愛情の絆が十分形成されていない。また、ここで特に大切とされる、触れ合いというのは五感の刺激が多いほど効果がある。これらの視覚、聴覚、触覚、嗅覚ですが、スマホ育児になると、全て機械なので実際の人から感じることはできなくなる。と研究者は述べている。

また、違う研究者によると、使う頻度が上がれば上がるほどどんどん子どもたちはやめなくなっていく、「子供達が騒ぐときだけ」に時々使わせたとしても子供はまた使いたがる。そうしてどんどん使用頻度が増えてしまう。

ただし、数値だけ見ると0分の家庭が多数いることもわかる。

6年ほど前SNSで話題になったシンガポールの小学生が書いた作文では、その小学生は家にただいまと帰ってくるけど、お父さんもお母さんも返事をしてくれない。ところが、スマホがプルッと鳴ったらパッと反応する。遊んでと言うけれど、お父さん、お母さんは遊んでくれず、何をしているかと思い覗くとスマホでゲームをやっている。お父さん、お母さんが、そんなにスマホのことが好き、そんなにスマホのことが大事だったら、僕はお父さん、お母さんに好きになってほしい。大事にされたいから、どうか僕をスマホにしてください—といった作文なのだそう。

4. 結論

これらの検証から、たしかにスマホ・ネグレクトという言葉があるだけあって、やはりネグレクトの原因の一つにもなっているがインターネットの普及が直接的にネグレクトに影響しやすいとは言えない結果になった。もちろん、スマホ・ネグレクトやネット依存の親も少なからずいますが、この調査では過半数の家庭がネット育児を懸念しており、1日のうちなるべくネットを育児で使わないように配慮している親が多くいることがわかった。自分の中ではスマホ育児＝子どもに悪影響を及ぼすだけのものと認識していたが今回で育児においてスマホを常に頼りにすることはもちろんよくないことだが、適度な使用は親の負担を減らしたり、子どもの想像力が豊かになったり、デメリットだけではないということがわかった。

では、なにが主にネグレクトを増やしているのか、インターネットの普及が主な原因ではないなら、やはり親の経済的な問題なのか、離婚数の増加が関係しているのかこれからもネグレクトの原因をより明確にするために検証し続けていきたいと思う。

5. おわりに

そして今回の研究からある一つの問いや疑問に対してその原因を偏見や憶測だけで決めつけるのではなくしっかり根拠づけて、正しく理解する必要があると思った。そのような正しい知識を身につけることによってまた新たな問題の解決方法を見つけ出し、詳しく研究するということを繰り返してより良い社会を作る担い手になりたい。

出典

厚生労働省【e-ヘルスネット】ーネグレクト

https://www.google.co.jp/url?sa=t&rct=j&q=&esrc=s&source=web&cd=&ved=2ahUKEwi030nd9976AhWTP1YBHVkHCVkQFnoECAkQAw&url=https%3A%2F%2Fwww.e-healthnet.mhlw.go.jp%2Finformation%2Fdictionary%2Fheart%2Fyk-046.html&usq=A0vVaw2_SeBj799NmemQ7Dh8fYYi

株式会社ベネッセホールディングス 代表取締役社長 安達 保

2017年10月16日「第2回 乳幼児の親子のメディア活用調査」

https://berd.benesse.jp/up_images/textarea/%E5%85%A8%E4%BD%93%E9%80%9A%E3%81%97.pdf

厚生労働省令和3年度児童虐待対応件数

<https://www.mhlw.go.jp/content/000863297.pdf>

公益財団法人 母子健康協会 第38回シンポジウム

「触れ合い育児の大切さ」…スマホ育児の弊害と対応…

東京慈恵会医科大学 名誉教授 前川 喜平先生

https://jp.glico.com/boshi/futaba/no82/con03_04.html

シンガポールの小学生の作文2016. 1. 7 著者不明

<http://www.allsingaporestuff.com/article/pri-sch-boy-i-wish-become-smartphone-so-my-parents-will-love-me-more>